

2024 3

ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

下川原慎吾、庄野主真
広井まさみ、井村清美

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

1月号作品批評／宮本史一(心の花)

住谷真 第二歌集 特集Ⅱ／松本芙貴子

現代文 知識ノート【4】／二方久文

甲村先生のこと／小村井敏子

高校生 祈りの歌

NILE CAMPUS

297

伯梅閑話 —— 六代目伯山への手紙続き ——

小村井敏子（五代目神田伯梅）

・伯龍は貞鏡さんが講談師になる前年に亡くなりました。善意のかたまりの伯龍。かねて、講談師になつて欲しかった貞鏡さんです。貞鏡さんの立場も考えず、喜んで何をするか知れません。孫の邪魔をしないよう千代夫人がお迎えに来たと思ひました。

・伯龍の芸をとことんダメ出して支えた千代夫人です。朝夕に線香を三本ずつ立て、朝はお茶を供え、三十分ほど読経。夕方は、お酒を供え、それを翌朝炊くご飯に入れていました。千代夫人が私たち夫婦を見守ってください。夫婦二人ではなく、千代夫人を含めた三人暮らしと思つていました。千代夫人の靈験あらたかでした。

そのほかにも不思議なことはありませんが、ここにとどめます。講談の隆盛が伯龍千代の願い、伯山先生のご活躍を伯龍は喜んでお思います。講談が恋人でしたから。

これは、六代目伯山先生に渡す、最初で最後のつもりで書いた手紙だ。浅草東洋館、二〇二三年六月二十五日、東京演芸協会六十周年のゲストで出演なさったときのことだ。私が伯山を聞きにくることは、最初に最後のつもりだった。当代一の人気の伯山だ。私が行けば、その分のひとりが伯山を聞くことができなくなる。すでに講談が好きな私より、初めて伯山を聞いて、講談を好きになる人が、ひとりでも多くいてほしいのだ。元々、入場券入手が難しい方を聞こうと思わない私だ。いいとわかつているから、行かないという気分でもあったし、前々から予定を立てて行くのが苦手なところもあった。越路吹雪のシャンソンを聞きに行きたかったが、ネット社会はまだまだ。ついに行くことはなかった。バス一本で行けて、当日ふらつと行つても入れる歌舞伎座の立ち見席が、高校時代からの行きつけだった。